地域と自分に誇れるシゴト。

［協力団体］（順不同）
・仙台市老人福祉施設協議会
・宮城県老人保健施設連絡協議会
・宮城県認知症グループホーム協議会
・みやぎ小規模多機能型居宅介護連絡会
・宮城県介護福祉士養成施設協会
・宮城県介護福祉士会
・宮城県看護協会

［発行］仙台市健康福祉局保険高齢部介護保険課　〒980-8671 仙台市青葉区国分町3-7-1　電話022-261-1111（代）

求められている、希望と力。

2025年問題。
「団塊の世代」が後期高齢者となる
この年を機に少子高齢化問題が
深刻化するだろうと言われています。
仙台市においても、そのときには
65歳以上の方が約27万7千人になり、
そのうち後期高齢者の占める割合は56.9%と
見込まれています。※

その一方で生産年齢人口は減少し、
地域の介護を担う人材が将来にわたり
不足することが見込まれています。

※仙台市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（平成27～29年度）より

福祉関係にこれまで
関わってこれなかった方にも
『職業としての介護職』を
選択・検討できるように、
介護の仕事の内容、やりがいなどを
先輩方の声を中心にご紹介します。

介護を受けるひとと
サービスを提供する仕組みは
年々変化しています。

今、福祉関連の専攻でなくても
資格がなくても大丈夫。

地域と時代のニーズに応え、
誰かのために働くという尊い仕事に、
あなたの力を注いでみませんか？

介護に関わる仕事って？

介護職

介護には「これが正解!これで完璧!」という事はありません。入居者様が不安にならないようそばで寄り添い、安心した生活を送っていただくのが目標です。人生の最期を一緒に過ごせるすばらしい仕事です。

グループホーム
（認知症対応型共同生活介護）
管理者
板垣 美絵子さん

高齢者やサポートを必要としている方の、身の回りの生活を支援する仕事です。食事、入浴、排泄の介助をはじめ、ひとりひとりの自立した生活に近づけるよう手助けをします。働く施設ごとに高齢者の要介護度や症状が違うので、職務の内容もさまざまな種類があります。無資格で働ける仕事もあり、働きながら資格の取得を目指すこともできます。社会の超高齢化に伴い、今後ますます必要とされる職種です。

看護師

看護師として新しい技術と知識を習得するために必要な資格取得に取り組んでいます。利用者様の人生に関わることで勉強になることがたくさんあります。一緒に成長していきましょう!

介護老人保健施設
看護師
桑原 千草さん

医師の指示のもと、要介護者や患者の体調管理、療養の世話、日常生活の援助などを行います。検温や血圧測定、薬の管理をはじめ、介護福祉士や社会福祉士などと連携した支援を行います。

栄養士

「食事の時間が一番楽しい」と言って頂けるように利用者様との『会話』を大切にしています。自分の仕事の姿を一番近くで評価してくれる方がいるのは、とてもやりがいがあります!

特別養護老人ホーム
栄養士
岡本 智子さん

介護施設においては「高齢者の栄養管理」も重要な仕事。栄養士は入所者や利用者の状態を把握し、献立を考えたり、食材を工夫したりします。また、厨房の衛生管理にも気を配ります。

リハビリ職

脳梗塞で右半身麻痺の方が、徐々にできる事が増え、調理をしたいと目標ができ、今では食事の支度ができるまでに。『その人らしい生活』を取り戻すお手伝いができるのが嬉しいです。

介護老人保健施設
リハビリ課統括主任
大友 智恵さん

理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などリハビリテーションを専門とする仕事です。いずれも国家資格で、介護施設では要介護者の機能回復訓練や社会参加に大きな役割を果たします。

介護支援専門員

在宅での暮らしを支えるケアプランは千差万別、色々な専門分野の意見を取り入れ、チームで考えていくことが大切です。困った時は先輩や仲間が助けてくれますよ!

小規模多機能型居宅介護
介護支援専門員
大石 一枝さん

「要介護者」が適切な介護サービスが受けられるよう、その方にあったケアプランを提案する専門職です。地域の高齢者が住み慣れた地で安心して暮らせるように、自治体や介護事業者、医療機関などと連携を取って支援します。

社会福祉士（相談員等）

いつも相手の目線に合わせて、相談しやすい雰囲気づくりを心掛けています。介護の仕事はやればやるだけ、人の温かさをより感じる仕事です。日々発見があり、それがやりがいにもつながると思います!

地域密着型特別養護老人ホーム
生活相談員
吉田 麻依子さん

一般的に「ソーシャルワーカー」と呼ばれ、さまざまなハンディキャップを抱える方からの相談を受け、的確な助言や援助を行う社会福祉の専門職（国家資格）です。介護の現場では、施設の入居者や家族からの生活上の相談を受けたり、通院・退院の支援など幅広い生活支援を行います。

介護職 story CASE Ⅰ

支援を必要としている人の手助けがしたくて「介護職」を選びました。

前田 翔太さん(29歳)
特別養護老人ホーム
ケアワーカー

東北学院大学
教養学部 情報科学科卒

大学では情報科学科で主にパソコンについて学ぶ。

漠然と大学に入学したが、卒業時どのように仕事と向き合っていきたいのか深く考える。 ▶ 辛い思いをしている人の手助けがしたいと現職へ。 ▶ 3年目職員として後輩の指導にも。

ターニングポイント

一般の大学から介護の世界へ。

大学では情報科学科で主にPCについて学んでいました。今日ではいかなる仕事においてもPCスキルは欠かせないので、書類の作成やデータ管理に役立っています。また、教養学部では広い分野を様々な視点で学習するので、世間の動きに注意を払い、必要な情報を仕事に結びつけるということが自然とできていると思います。

介護職を楽しんで仕事をする!

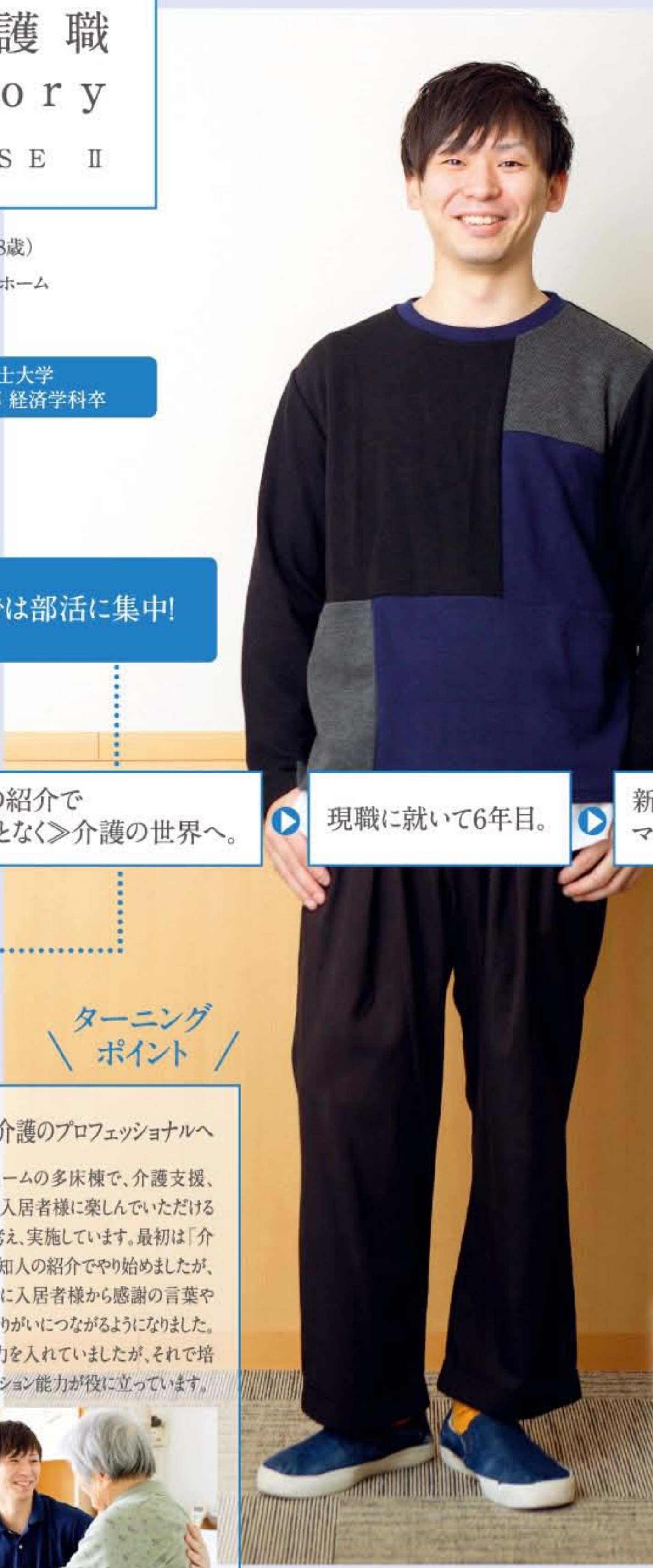
生活を支援する介護職は利用者様のほぼすべての生活に関わるため、介護職員自身が≪楽しんで≫仕事をし、前向きに生活に溶け込むことが必要です。また、福祉の世界では「現場に直接触れる」ことが大事。見学に行くなど、まずアクションを起こしてみると良いと思います。

介護職 story CASE Ⅱ

興味はあまりなかった介護の仕事。「感謝の言葉」がやりがいにつながって。

北村 翔さん(28歳)
特別養護老人ホーム
介護副主任

富士大学
経済学部 経済学科卒



大学では部活に集中!

知人の紹介で≪なんとなく≫介護の世界へ。 ▶ 現職に就いて6年目。 ▶ 新人職員教育やマネジメント業務まで担当。

ターニングポイント

一般大卒から介護のプロフェッショナルへ

特別養護老人ホームの多床棟で、介護支援、シフト作成、時には入居者様に楽しんでいただけるレクリエーションも考え、実施しています。最初は「介護」に興味はなく、知人の紹介でやり始めましたが、仕事をしているうちに入居者様から感謝の言葉や笑顔をいただき、やりがいにつながるようになりました。大学では部活に力を入れていましたが、それで培われたコミュニケーション能力が役に立っています。

「声なき声」に耳を傾けたい。

入居者様の中には、認知症だったり、職員への遠慮から思いをうまく伝えられない方がたくさんいます。そのような方の「声なき声」に耳を傾け、その人らしい生活ができるように支援したいと思います。高齢者からは、生き様や人生観、生活の知恵など、学ぶ事がたくさんありますよ。

介護職 story CASE Ⅲ

「相手の顔がみえる仕事」に就きたくて無資格のまま介護の世界へ挑みました。

小野寺 謙さん（40歳）
特別養護老人ホーム
介護主任 兼 介護支援専門員（ケアマネジャー）

立命館大学
法学部 法律学科卒

大学では法学部で
特に債権法を学ぶ。

卒業後は一般企業を目指していたが「対人の仕事」がしたいと介護の世界へ。

働きながら資格取得！

現職に就いて
18年目のベテラン職員。

ターニングポイント

一般大卒からケアマネジャーとして活躍。

現在ケアマネジャーとして、入居者様の「ケアプラン」を作成。関係職員とカンファレンスを重ね、本人の意向が反映されるように取り組んでいます。主任としては介護現場全体の管理・運営・職員の指導を行います。また「介護福祉士」でもあるので通常の介護業務も行います。今の仕事に直結はしませんが、大学時代に学んだ「法学」の世界は物事を体系的に考えることに役立っています。

要介護者の「日常を守る」奥深い仕事です。

地域の高齢者の皆様が安心して最期まで暮らせる環境を提供できるようにする専門性の高い仕事ですが、他者の日常を守り、寄り添うことの難しさもあります。しかし「相手の側に立ってものを考える」ということを一生かけて学べる貴重な仕事でもあります。ぜひこの奥深さに触れに来て下さい！

追いかけちゃいました！ある介護職員の一日 A DAY

山口 友紀さん（25歳）
特別養護老人ホーム
介護職員

今日は［早番］。
スタッフとの申し送りの後、
入居者様の起床介助からスタート！

申し送りは
大事な仕事！
真剣に！

朝食配膳
食事介助

水分補給
排泄介助
余暇支援

いつも
笑顔を大切に。

昼食準備
配膳

入居者様の立場で考え、されて嬉しいこと、安心すること、笑顔になっていただける支援を心がけています。

［遅番］の
スタッフに
申し送り

休憩

ほっと
ひといき！

言葉を多く話せない入居者様へ毎日お声がけをし、コミュニケーションを積極的に取っていたら、一緒に歌を歌ったり、表情豊かになってくれました。ご家族より「面会にしばらく来られなかったけど、安心していられました」と言われたことは、とても嬉しかったですね。

入浴介助
フロア業務
［おやつ介助、
リネン交換など］

3大介護（食事・入浴・排泄）以外にも、生活環境の整備、外出支援など、「当たり前の生活」が送れるように、他職種と連携し支援しています。

退勤

おつかれさま
でした！

人を笑顔にできる
素敵な仕事です！
ぜひ、一緒に働きましょう！

介護職
初心者でも
OK!

働きながら取得できる資格

介護職員初任者研修　介護福祉士

介護支援専門員（ケアマネジャー）

2013年4月にホームヘルパー2級が廃止となり「介護職員初任者研修」ができました。厚生労働省が定めた『在宅・施設を問わず、介護職として働く上で基本となる知識・技術を修得する研修』であり、介護施設の求人に応募する際にも必要とされる事がある初心者向けの資格です。各都道府県が指定する事業者（スクールなど）が実施する130時間の研修を受講する必要があります。一部通信制や土日コースがある学校など、就職しながら取得している方もたくさんいます。

介護職の中で唯一の国家資格である「介護福祉士」は、福祉系の学校を卒業していない場合は、受験資格として3年以上の実務経験が必要となります。今後ますます需要が増すと想定される資格です。

さらに「介護支援専門員（ケアマネジャー）」の資格取得で、介護業界でのキャリアアップを重ねていく方もいらっしゃいます。

介護のプロも、最初は初心者。学ぶ方法はいくつも用意されています。

介護職員キャリアアップモデル例

新入社員

一般職
介護の基礎を取得

リーダー職
幅広い知識・技術を実践
後輩を指導

指導職 専門職
多様なニーズに対応できる質の高い介護の実践
介護技術の指導
職種間の連携
チームケア

管理職
事業所の統括
組織活動の推進
介護人材の育成
地域への貢献

経営職
法人全体の経営の最適化
新規事業化
時代変化の対応

目指せ！管理職・経営職！

法人本部の仕事
（総務・財務・企画）

介護職員初任者研修修了 → 介護福祉士資格取得 → 介護支援専門員資格取得

介護福祉士資格取得
実務経験ルート　実務経験3年以上 ＋ 実務者研修 ▶ 筆記試験（実技試験免除） ▶ 資格取得（登録）

目指せ！介護のプロ！

適材箇所！介護以外の仕事も → 法人本部の仕事

未来へつながるキャリアデザイン

経営者としての介護職

田中 伸弥さん（35歳）
特別養護老人ホーム
施設長
介護福祉士、社会福祉主事、社会教育主事、児童福祉司任用資格

2003年（22歳）
仙台大学体育学部 健康福祉学科卒業
2004年（23歳）
大学卒業後、介護老人保健施設にて介護職員として勤務。
2006年（25歳）
兄が事故で高次脳機能障害、寝たきりの生活となる。
兄の看病等のストレスも重なり母が倒れ、余命半年との診断。
2007年（26歳）
岩手県盛岡へ引越し。病院併設の介護老人保健施設にて介護主任、
デイケアの相談員として働きながら兄、母の看病。
2010年（29歳）
介護支援専門員資格取得
特養・法人の活性化のため仙台へ。10月より施設長就任。

様々な経験を経て生かされる
介護という魅力ある仕事。

大学卒業時、教員採用試験を受けるも不採用。介護の資格を取得していたのでとりあえず介護の道へ、という始まりでした。身内の看護という大きな転機を経て、現職である特別養護老人ホームの活性化のために仙台へ。施設長としてがむしゃらに働いていたところ、就任半年で東日本大震災を経験。当時、施設を一般に開放したところ、まだまだ周知されていないことを実感。地域と連携を図る重要性を感じました。
現在は法人事務局として施設運営・経営方針の策定、特養における人事や管理など多岐に渡る仕事をしていますが、働く環境には良好な人間関係が不可欠です。職員のリアルな声に耳を傾け、利用者様から対応のよかった点、ダメだった点の吸い上げを積極的に行っています。「最期のおうち」としての役割を持つこの施設では、できるだけ一人ひとりの願いをかなえてあげたいとも思うのです。
大学では、体育学、健康福祉学に基づいた多様な知識や技術はもちろんのこと、体育大ならではのコミュニケーション能力が身に付き、介護の現場でも役立っています。介護とは、相手が大切にしているものを大切にすること、いわゆる『尊厳』を護ることだと思います。共に生きて、共に学び、喜怒哀楽のある暮らしを創造する―そんな魅力ある仕事を一緒に作っていきましょう。

入居者一人ひとりとの対話を大切にします

コミュニケーションを多くとれる施設づくりを目指しています

マネジメント職としての介護職

加藤 誠さん（40歳）
介護老人保健施設
統括部長
社会福祉士 介護支援専門員

1999年（23歳）
東北福祉大学　社会福祉学部　福祉心理学科卒業
老人保健施設に相談指導員として入職。
2000年（24歳）
現施設にケアワーカーとして入職。
2001年（25歳）
支援相談員になる。
2006年（30歳）
相談室副室長に就任。
2009年（33歳）
地域管理部長に就任。
2011年（35歳）
統括部長に就任、現在に至る。

これから大きく変革していく分野。
誰にでも活躍できる可能性がある。

大学まではスポーツに集中。社会人になる事はたいへんな責任を負うという事にプレッシャーも感じましたが「人の役に立たなければ」との思いに至り、この世界に入りました。
5年ほど支援相談員として従事しましたが、現在は職員の勤怠の管理や人事の組み立てなどの『管理業務』になり、また違った形での介護職を実感しています。
チームを俯瞰から見つめ、的確な役割分担でまとめていく必要があり、客観性や判断力も大切です。利用者様と職員の声をよく聞き、よりよい現場づくりを心がけています。
介護に関わる事は決して楽ではありません。介護の仕事が好き、がんばりたいという感情が本気であればあるほど、ギャップや苦しみを感じるかもしれません。それでも、その苦労を乗り越えた時に感じる成長や周囲の変化は他のどの仕事にも引けを取りません。まだまだ成熟しきっていない分野です。誰にでも活躍できる可能性があると思います。

働きやすい職場環境を目指します

安心してもらえる説明を心がけています

介護の現場で働く、ということ。

［仙台市の高齢者を取り巻く環境と将来性］

後期高齢者数の割合に変化。介護職需要の増加が見込まれる。

仙台市における65歳以上の高齢者は236,634人。平成37年には約277,000人になると見込まれています。この内後期高齢者の割合は56.9%。今後もより増加すると思われ、急速な介護職の人材育成が求められています。

仙台市における65歳以上の方の人数
（第1号被保険者数）

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成32年	平成37年
75歳以上	103,109	106,792	110,726	115,976	129,179	157,842
65～74歳	117,903	122,662	125,908	125,536	130,768	119,610
合計	221,012	229,454	236,634	241,512	259,947	277,452

※平成28年までは実績（各年10月1日）、平成29年以降は推計

「要介護認定者」も増加傾向。必要とされる介護のスキル。

社会の高齢化にともなう「要介護等認定者数」は平成28年10月1日現在で43,198人。65歳以上の高齢者に占める割合は18.3%となっています。平成37年には約62,000人になると見込まれ、介護職の専門スキルもより必要とされるでしょう。

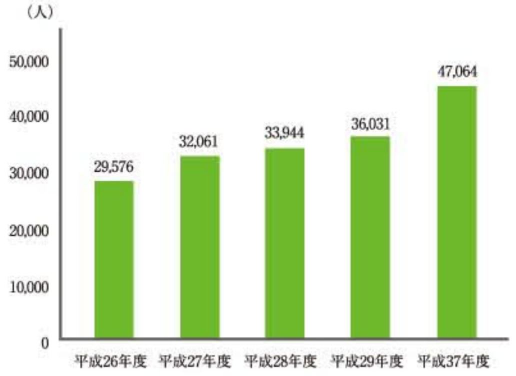
要介護等認定者数の推計

※平成28年までは実績（各年10月1日）、平成29年以降は推計

高齢化の進展に伴って、採用ニーズが増えているのが介護業界です。

県内でも平成37年までに約1万3千人の介護職員を増やす必要があると推測されています。

介護職員の需要推計（宮城県）



［出典］：宮城県「第6期みやぎ高齢者元気プラン」

介護に関する情報はここからGET!

求人情報
WEBサイト
福祉のお仕事

http://www.fukushi-work.jp/

公益財団法人
介護労働安定センター
宮城支部

http://www.kaigo-center.or.jp/shibu/miyagi/index.html

頼られる喜びと笑顔のお返し。

ちょっとした親切をしたことで
とても感謝されたり、
笑顔をもらったり。

そんな小さな嬉しさや感動が
福祉や介護の原点かもしれません。

それは、専門のスキルとは
関係ないところにあって、
いろいろな学びや経験があった方が
よい方向に進む場合もあります。

あなたの人間力や魅力が発揮でき、
≪誰かのためになる仕事≫が
介護の現場には、きっとあります。